

NOSAIの技術情報



No. 3

平成18年8月1日
神奈川県農業共済組合

水田の適正管理に努めましょう



イネミズゾウムシ被害状況（田植後25日）田植前の育苗箱施薬を励行しましょう



・畦畔の草刈りの励行



・除草剤の使いすぎは
畦畔の崩壊。



・除草剤による薬害

- ・ 除草剤は省力化のために使用されていますが、使い方によっては、水稻の葉が薬害を起こし生育を停止させます。
- ・ 除草剤の使用に当たっては、使い方を守って正しく使いましょう。



- ・畦畔雑草は斑点米カメムシの棲息地となり、米の品質低下の被害を招きます。しっかりと草刈りを行いましょう。



- ・田植後の除草剤の散布むら、適正な水管理がされず「ヒエ」に悩まされている水田。今からでも「ヒエ取り」をしましょう。

品質の良い米作りは、水管理が極めて重要です

- ・ 中干し、追肥が済み、水を最も必要とする生育時期です。しっかりとした水管理をしましょう。
- ・ 幼穂形成期から穂揃期は湛水状態にします。1日10a当り40t前後の用水量が必要とされています。
- ・ 登熟期は浅水または間断灌水です。地下部への酸素補給により根の活力向上や、土が締り倒伏予防効果があります。
- ・ 収穫前の落水時期は、概ね収穫の7日前又は出穂後30日以降とします。
- ・ 早い落水は、登熟阻害や障害粒が増加します。